

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

やはり俺のCMなどは間違っている

【作者名】

Y t a i

【あらすじ】

俺ガイルキャラでCMやその他もろもろを描いていきます。

* 注意*

投稿は不定期です。

誤字・脱字があると思いますがご了承ください。

多少キャラ崩壊も含まれると思います。

小町好きなのもご容赦ください。

CM イイトコメガネ

葉山『僕も持つてるイイトコメガネ 人のイイトコが見えるのだ
』!!』

葉山『イイトコメガネ』

戸部『ちつす!!なにこれ!!マジつけるWWW』

葉山『戸部はクラス一番のムードメーカーで、イベントでも積極的に動いてくれる。いい奴だよ』

雪ノ下『騒ぐことしか能のないお調子者ね』

葉山『イイトコメガネ』

三浦『黙ってたらかわいいんだから、すこしは擬態しろし鼻血拭け
し』

葉山『優美子は姫菜の暴走をよく止めるくれるし率直に意見を言っ
てくれる。いい奴だよ』

雪ノ下『威嚇とがなり立てることしか出来ない女王様』

葉山『…イイトコメガネ』

材木座『待ちわびたぞ!!いかにも我が剣豪將軍・材木座義輝だ』

比企谷『中二病じゃなければ、比較的におタな作家だ。いい奴なん
じゃねーの?』

雪ノ下『最低限の日本語も書けず常識も無くしゃべり方のおかしい変質者』

葉山『……イトコメガネ!!』

由比ヶ浜『やっはろー!!』

葉山『結衣はだれとでも気軽に接することができ周りに気を配ることがができる。いい奴だよ』

比企谷『まさしくビッチだな』

葉山『……イトコメガネ』

戸塚『ぼ、ぼくも……ヒッキーって呼んでいい?』

葉山『男女分け隔てなく接することができるし善悪の分別がしっかりしている。いい奴だよ』

比企谷『……あまりの可愛さにつっかり見とれてしまったぜ……』

葉山『……イトコメガネ』

小町『あ、いまの小町的にポイント高い』

雪ノ下『小町さんはあんなろくでなしでも面倒をしっかりとみてくれる。間違いなくいい人ね』

比企谷『ぐ、反論できない』

葉山『……………イトコメガネ』

雪ノ下『比企谷くん、現実から目を背けないで。きちんと現実を知りなさい』

由比ヶ浜『ゆきのんはいろいろな相談に乗ってくれたり、真面目で真剣で本音を言い合える大好きな友達で……………あゝ、もうたくさんありすぎて言い切れないよ』

比企谷『由比ヶ浜……………お前どれだけ雪ノ下のこと好きなんだよ』

葉山『……………イトコメガネ』

比企谷『……………』

由比ヶ浜『ヒッキーはとにかく……………優しいかな?』

小町『お兄ちゃん是比较的だめだけど、小町のことを常に考えてくれる良いお兄ちゃんだよ?』

雪ノ下『目が腐っているうえに性格もひねくれている小悪党』

葉山『……………みんなイトコいっばいだな。イトコメガネはみんなの心の中にあるよ!』

比企谷『最後に俺をディスるとかやはり氷の女…』

雪ノ下『ヒキガエル君、何か言っただかしら?』

比企谷『……………』

お笑い　なんでだろう

小&八「どうも〜！Hand小町です！」

雪&結「……………」

八幡「この曲を聴いてください」

小&八「……………なんでだろう？なんでだろう？」

小町「なんでだろう？」

八幡「なんでだなんてだろう？」

小町「お兄ちゃんのなんでだろう!!」

小町「結衣さんがお兄ちゃんのこと」

結衣（八幡）「ヒッキー!!」

小町「……………ヒッキーって呼ぶのなんでだろう？」

八幡「なんでだろう？」

結衣「ヒッキーはヒッキーだから……」

小町「お兄ちゃんが喋るとき」

八幡「MAXコーヒー旨いな」

クラスメイト大勢「……………」

小町「…………みんなすごく黙るのなんでだろう？」

八幡「なんでだろう？」

結衣「たぶん、みんな『誰？』ってなってるんだと思う」

小町「お兄ちゃんと話をすると」

八幡「お前の口は自動小銃か」

小町「…………ときどきなんて言ってるかわからないのなんでだろう？」

八幡「なんでだろう？」

雪乃「小町さんに非はないわ」

小町「お兄ちゃんはいつも……………」

八幡「……………」

小町「…………目が腐っているのはなんでだろう？」

八幡「なんでだろう？」（人の粗探しもラークラク）

小町「文化祭が終わったとき」

八幡「小町の手料理の方が嬉しいんだけどな」

小町「……お兄ちゃんのヒモの未来が見えたのなんでだろう？」

八幡「なんでだろう？」

結衣「シス…シスコン」

小町「お兄ちゃんと雪乃さん」

八幡「そうゆう考え方がまずおかしい」

雪乃（八幡）「確かに正論なのだけれど、あなたが言つと説得力がな
いわ」

小町「……毎日、痴話喧嘩してるのなんでだろう？」

八幡「なんでだろう？」

結衣「私は？」

小町「こんなに捻デレなのに……結衣さんと雪乃さんに好意を持た
れてるのなんでだろう？」

八幡「なんでだろう??？」

雪&結「……………／／／」

小町「雪乃さんはお兄ちゃんに……………」

小町「毒舌を吐くけれど……………」

小町「見解の一致がたびたびあるの」

小町「なんでだろう?」

小町「結衣さんはものすく……………」

小町「料理上手くないんだけど……………」

小町「お兄ちゃんが全部食べたのはなんでだろう?」

八幡「なんでだろう?」

小町「どうでもいいことだけれど」

八幡「ばばばん!」

小町「このアニメのタイトルがこんなに長いの」

小町「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。」

八幡「なんでだろう?」

小町「なんでだろう?」

小&八「……なんでだろう？なんでだろう？」

小町「なんでだろう？」

八幡「なんでだなんてだろう？」

小町「皆さんも一緒に!!」

小&八「なんでだろう？なんでだろう？」

小&八「なんでだ？なんでだ？なんでだ？」

小&八「なんでだろう？」

小&八「どうもありがとうございました」

雪乃「結局、何がしたいのかしら……比企谷君」

八幡「小町がやりたいって言ったから手伝ってやったただけだ」

結衣「やっぱりシスコン!!」

比企谷国語辞典

雪乃「また何か始まるようね」

結衣「まあまあ、ゆきのん。……とりあえず見てみようよ」

雪乃「そうね」

小町「比企谷国語辞典」

小町「学校」

八幡「教育のための建物、または幼児・児童・生徒・学生その他に
対して教育が行われる場所のこと」

小町「青春」

八幡「常に自己と周囲を欺き自らを取り巻く環境を肯定的にとらえ
ることができる人のみを感じることでできるもの・時代」

雪乃「あなたとは到底無縁なものね」

小町「中二病」

八幡「中学二年生を頃に幻想的な思考や行動に囚われやすくなる
が、言葉の通り精神的な疾患・病気とは関係なく数年を機に自己を見
つめ直しそのような思考や行動はしなくなる。まあ、この機を逃すと
材木座のようになるから気をつける!!」

小町「中二さん頑張って!!」

材木座「ひでぶっ!!」

小町「ボツチ」

八幡「俺」

雪乃「悲しい告白ね」

小町「リア充」

八幡「現在状況が充実している人を指す。主に友達が多く恋人がいるなどがあげられるが上っ面だけでの関係である場合が多い。その中でもいろいろな枷がある」

八幡「リア充代表のバカケ浜、何かあるか？」

結衣「……………んーっとなえっとな、その前にバカってなんだし!!」

小町「由比ヶ浜結衣」

八幡「少しお頭が悪く壊滅的な料理センスの持ち主で様々なダメージを作り出している。八方美人以上の素質を持っているが最近改善されつつある。口癖は語尾にしをつける傾向がある。後、ヒツキーって呼ぶな」

結衣「……………美人だって、うへへ／＼／」

小町「ポイント高い」

八幡「好感度を下げる語尾。主に比企谷小町が使つ言葉。具体例を

挙げるとすれば、『八幡はあなたの為を思って言ってるんだからね!!
あつ 今の八幡的にポイント高い』などが挙げられる」

雪ノ下「気持ちが悪いわ」

小町「ヒキタ二君」

八幡「そんな奴はこの世にいない」

小町「撃滅のセカンドブリット」

八幡「元ネタはアニメ・マンガではあるが、実際に一教師が放つ必
殺技。ひとつ前に衝撃のファーストブリット・一つ後には抹殺のラス
トブリットと三段階に分かれている。食らうとマジで痛い。ソース
は俺」

結衣「ヒッキーは食らったことあるんだ」

小町「雪ノ下雪乃」

八幡「な…なんも言えねえ!!」

雪乃「比企谷君にしては賢明な選択ね」

小町「比企谷小町」

八幡「比企谷家ヒエラルキーでトップに君臨する人物で世界一可愛
く愛おしい俺の妹、略して俺妹。親父が溺愛するあまりに俺の生命が
危ない。……これはマジ。後、小町に近づくハエどもにはもれなく
レーザーポイントを眼球にプレゼントしてやるから覚悟してろ!!!」

小町「少しシスコン気味だけど、お兄ちゃんがこんなにも小町のことを思ってくれてたなんて……………感動だよ!!…今日の夕飯何がいい……………お兄ちゃん?」

八幡「小町の作る料理なら何でも良いよ」

小町「ノノノ……………ありがとうございました。それじゃあ行こっ
お兄ちゃん」

ガラガラガラ……………ボタン!!

雪乃「やっぱりこういう結末になるのね」

結衣「ヒッキー……………それはないよ」

武勇伝

ガラガラガラ

雪ノ下「また何を始める気かしら？」

由比ヶ浜「まあまあ、ゆきのん。……とりあえず見てみようよ」

雪ノ下「由比ヶ浜さん、あなた前回と同じこと言っているわよ」

由比ヶ浜「ゆきのん、しっしっ！」

雪ノ下「……………」

小&八「デンドンドンデンドンドン」

小&八「デンドンドンデンドンドン」

小&八「デンドンドンデンドンドン」

小&八「デン！デン！デン！」

八幡「押してダメならあきらめる by 比企谷八幡」

小町「お兄ちゃんかっこいい!!」

小&八「デン！」

小町「ヒキレンタルラジオです。」

八幡「お願いします。」

小町「お兄ちゃんいつものやったげて！」

八幡「おー聞きたいか俺の武勇伝」

小町「そのすごい武勇伝をゆったげて！」

八幡「俺の伝説ベストテン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「入学初日に事故に遭う」

小町「すごい！高校でもぼっちデビュー!!」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「雪ノ下に毒舌食らう」

小町「すごい！もうお兄ちゃんのライフはゼロよ！」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「由比ヶ浜の料理を食べる」

小町「すごい！返事がない。ただの屍のようだ」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

八幡「カッキーン！」

小町「すごいよ、お兄ちゃん。すごすぎるよー！」

小町「あっ！お兄ちゃんが遠ざかっていく」

小町「お兄ちゃん、止まって！」

八幡「止まらねえ！」

小町「止まって！」

八幡「止まらねえ！」

小町「止まって！」

八幡「止まらねえ！」

小町「止まって!!」

八幡「やってるんだよ！チバテレビでアニメの再放送が!!」

小町「かっこいいー！」

八幡「カッキーン！」

八幡「かくれんぼでは俺最強！」

小町「すごい！日常的にお兄ちゃん居ただ！」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンドンドン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「家で猫を飼うことに」

小町「すごい！ヒエラルキー猫より下に」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンドンドン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「雪ノ下に噛みついてみる」

小町「すごい！トラウマがみんなにさらされる」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンドンドン！」

八幡「カッキーン！」

小町「すごいよ、お兄ちゃん。すごすぎるよ！」

小町「よし、今からお兄ちゃんの部屋を掃除しよう」

八幡「いいだろう！」

小町「まずはごみを捨てなきゃね！じゃあこの中に入れて」

八幡「携帯、財布、家の鍵にMAXコーヒー」

小町「ちよつとちよつと！」

八幡「さあ、いまして燃やせ！」

小町「お兄ちゃん、これ全部大切なものだよ！」

八幡「バ、カ、野郎!!」

小町「うわああ!!」

八幡「大切なものがなくても小町との思い出があれば俺は十分なんだよ」

小町「かつこいいい／＼／」

八幡「カツキーン！」

八幡「肝試しでお化け役になる」

小町「すごい！ノーメイクでゾンビ顔に！」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「一人野球を編み出した」

小町「すごい！ただただ友達いないだけ！」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小町「レッツゴー！」

八幡「交友関係を消去する」

小町「すごい！デーリートじゃなくてリセットでした」

小&八「武勇伝！武勇伝！武勇伝デンデンデン！」

小&八「意味はないけれどムシャクシャしたから材木座をシカトする」

小&八「デンデンデンデン」

小&八「ある放課後の奉仕部部室で存在まで否定される」

小町「お兄ちゃんかっこいい!!」

八幡「カンカカカンカカッキーン！」

八幡「ひとつひとつの言葉噛みしめて専業主夫目指す」

小町「ペケポン！」

雪ノ下「武勇伝が何一つないのだけれど何がしたいのかしら比企谷君は？」

八幡「あれはただ小町に付き合っただけだ」

由比ヶ浜「やっぱりヒッキー、シスコン!!」

もしかしてだけど

がらがらがら

由比ヶ浜「やっはるー、ゆきのん」

雪ノ下「こんにちは、由比ヶ浜さん」

由比ヶ浜「ヒッキ もやっはるー!!」

比企谷「……………」

材木座「デンドンドンデンドンドン」

雪ノ下「由比ヶ浜さん、もう始まるから静かにして頂戴。」

由比ヶ浜「なにが始まるの？ゆきのん？ヒッキ とギター片手の中
二が何を……………」

雪ノ下「由比ヶ浜さん、しっつ!!」

由比ヶ浜「ドヨオオ (ヌー) オオン……………」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もっしかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「もっしかしてだけど」

比企谷「それってオイラを」

比&材「誘ってんじゃないの〜」

トントントントン

比企谷「奉仕部室で雪ノ下が、初対面の俺の事を、ぬぼ〜っとした人と呼んでいたんだ」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「このタイミングでゆきのんって呼んでほしかったんじゃないの〜」

トントントントン

比企谷「放課後の家庭科室で、由比ヶ浜が出来の悪い、クッキーのようなもの作っていたんだ」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「構ってほしくて、わざと失敗してるんじゃないの〜」

雪ノ下「由比ヶ浜さんが、そんなことを（A、（フウ・・・」

由比ヶ浜「ご、誤解だよ!!ゆきのん!!」

トントントントントン

比企谷「教室で倒れてる時に、横を通った川崎沙希が、バカじゃないの?」
「と言ってきたんだ」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「俺にパンツ見せるために遅刻したんじゃないの〜」

雪ノ下「後で、じっくり話を聞かせてもらおうわ」

由比ヶ浜「とりあえず、小町ちゃんに連絡するね」

トントントントントン

比企谷「雪ノ下と買い物してる時、偶然出会った陽乃さんが初対面

の俺にくっついてきたんだ」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「俺にその豊満なおっぱいを触ってほしかったんじゃないの
」

比企谷「Do you wanna hold me tight
」?

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「もしかしてだけど」

材木座「も〜しかしてだけど」

比企谷「俺が欲しくてたまらないじゃないの〜」

材木座「そういうことだろ!!……デーン」

雪ノ下「比企谷くん、この後わかってるわよね」

由比ヶ浜「ヒッキ、今の話説明してもらっつからね〜」

比企谷「いや、早く帰らないと小町がご飯作って待ってるんF rだ」

雪ノ下「小町さんはもうすぐ着くそうです」

比企谷「(逃げるなら今だ!!)」

がらがらがら

小町「お兄ちゃん()。 。 ()！お座り!!」

比企谷「はい (p | i 、 i | i) (q |)」

小町「今日はとことん説明してもらっからね。お兄ちゃん()。 。」

。()」

拙者ギター侍じゃ

比企谷「小町〜！小町はどこだ？」がらがら

由比ヶ浜「やつはろー」

比企谷「お、おう」

雪ノ下「遅かったわねシス谷君、あなた挨拶もできないほど症状（シスコ）が悪化したなんて小町さんもかわいそうね」

比企谷「悪かったな、小町に呼ばれたんだよ。部屋に来てな。それにお前も俺に挨拶してないからな」

雪ノ下「目下の人間が先に挨拶するのは常識だろ思うのだけれど、シス谷君は人間じゃないから、そんなこと言ってもわからなかったわね。ごめんなさい」

比企谷「お前より地位が低いのは認めるが、人外扱いはやめてくれませんかね」

由比ヶ浜「そんなことより、小町ちゃん少し遅れてくるから待っててメールが来てたよ」

比企谷「さりげなく人外決定するのやめてくれる？俺泣いちゃうよ？」

雪ノ下「ゴミ谷君は置いといて、小町さんはなぜ私たちまで呼び出したのかしら？」

由比ヶ浜「うんわかんない。ヒッキーと一緒にまたなんかやるんだと思ってたけどヒッキーも呼ばれてみたいだし」

雪ノ下「そうね私もてっきりそう思っていたのだけれど、見当違いのようね。比企谷君？あなた小町さんから何か聞いてない？」

比企谷「いいや俺も何も聞いてない。あいつのことだ、また要らん事をやるに違いない」

小町「ちよっと!!まった〜!!」がらがら

比企谷「小町！お前から呼び出しといて遅れてくるとは、心配した。遅れるなら遅れるってちゃんと連絡しろよ」

小町「お兄ちゃん、心配してくれるのは嬉しいけどそこまでくると逆にきもいよ。雪乃さん、結衣さん、やつはろーです。遅れてすいません」

雪ノ下「こんにちは小町さん。気にしないでいいわ些細なことよ」

由比ヶ浜「やつはろー小町ちゃん。全然待ってないから大丈夫だよ」

小町「雪乃さんも結衣さんもいい人ですね〜将来的に小町のお姉さんになりたい!!ねえお兄ちゃん？」

比企谷「それより小町？なんで部室に俺たちを集めたんだ。」

小町「はあ〜。お兄ちゃんに言っても仕方ないか。それではみなさんご清聴……じゃなかった。多いにお楽しみください」ジュンビジュンビ〜

比企谷「……お、おい！何するんだ！こま……」

雪ノ下「少し黙ってなさい、比企谷君」

由比ヶ浜「そっだよヒッキー、しっ！」

比企谷「(ドゥユウウ)アッ(っ)」

小町「拙者、ギター侍じゃ〜」ぽっちとなCDオン

小町「お兄ちゃんの周囲を覗いてまいりました」

デデデデンデデデンデデデンデデデン

小町「わたし、由比ヶ浜結衣。ヒッキーに今度こそ私の料理を
おいしいって言わせてやるんだっていうじゃな〜い」

デ〜ン

小町「でも結衣さんが先にやることは料理のさしすせそを覚えるこ
とですから〜!!」

小町「ざんね〜ん!!」「デ〜ン

小町「まず卵焼きから作りましょう。斬り」「デ〜ン

デデデデンデデデンデデデンデデデン

小町「わたし、雪ノ下雪乃。比企谷君、あなたはどうしてそう
捻くれた性格をしているのかしら私が矯正してあげるわって〜い

「じゃな〜い」

デ〜ン

小町「その前に雪乃さん、お兄ちゃんにそんなこと言っても無駄ですから〜!!」

小町「ざんね〜ん!!」デ〜ン

小町「残念なのはお兄ちゃんなのでした、斬り」デ〜ン

デデデデンデデデンデデデンデデデン

小町「わたし、比企谷小町。比企谷八幡の妹です。お兄ちゃん毎日毎日捻じ殺しさんです。ここは小町が何とかしないとイケないなっ〜ていつじゃな〜い」

デ〜ン

小町「ダメなお兄ちゃんを支える妹を演じてるだけですから〜!!」

小町「ざんね〜ん!!」デ〜ン

小町「本当に本当はお兄ちゃん大好きな小町なのです。斬り」デ〜ン

デデデデンデデデンデデデンデデデン

小町「おれは、比企谷八幡。スペックはそれなりでルックスもいい方だ。それなのに奉仕部で雪ノ下には毒舌食らうし由比ヶ浜は「きもいきもい」「ばっかだしそれなりにストレスがたまってますって

いじぢやない」

デーン

小町「それは雪乃さん、結衣さんなりの愛情表現ですから!!」

小町「さんね〜ん!!」デーン

小町「お兄ちゃんはまず雪乃さんや結衣さんの好意に答えてあげてください。切腹」デーン

小町「ありがとうございます」

由比ヶ浜「小町ちゃん、面白かったよ。でねさしすせそって何かない?」

雪ノ下「由比ヶ浜さん、それは私が後でおしえるから安心して頂戴。

小町さんなかなか参考になったわ。ありがとうございます」

小町「いえいえこちらこそ。兄がいつもお世話になっておりますので」

比企谷「小町〜!おーい小町さんや〜い?」

由比ヶ浜「この後、どこか食べに行こうよ。いろいろ話したいし、ねえゆきのん」

雪ノ下「断って無駄なのはわかっているは、食事くらいなら付き合っは……」

由比ヶ浜「それじゃあ、ゆきのん、小町ちゃん、レッツゴー！」

ガラガラガラバタン

比企谷「……………まあ、俺が誘われないのは分かってたけどね。
はあ、帰るか」

ピロリロリン

メール

お兄ちゃん、先にサイゼに行ってるね。お兄ちゃんも来ること、いいね！絶対だよ！byお兄ちゃん大好きな小町

比企谷「メールなんだからいちいち名前打たなくてもいいだろ……………たくつしょうがない行くか」